東海道中膝栗毛 六編 下

特
へ遠13
1164
15

1164
15

昔物語五十二ノ六篇実之ノ
ぬ又昨のうへをくる古市ノ侶家新ノ
ひにてうるいせもんぢの二条
てお事やしくろくよいくまし
たをぐる三陸くの「おうれやてもんする
法事有いまよトくいふ
さんこうしよぢやるのうう
あ〜い大きる所のまいん

のはなしあうさうろうへおやく所とうろくまつ〳〵ぶ
これもろうきさまおかねでおまつりこのへ十サ格別
ろ〳〵こんせでいるんうこのろくが男と二十三ろ
あつてれの教ゞ三百三十三人ろしどや
さうころ〳〵娘うろこういうろ〳〵京のおやへうち
六条数珠やまちでありこの子ろ」ゞさ
さんやかうさんいさぞやたんどくやさんをどや
あろふこさうまあ男だろうろ買うまそろとの
ろ〳〵やこれじやり〳〵女「これ〳〵まるお生んべ
るトそのろうろくまおこぶんろうろ」「ぶるさんろ
どれもろ〳〵生業じやうさんろこと
ちとあのちやへさんせ「アイのひとのおばよの
トそのろぞんろうて要「ましてるく〳〵てる」「あの
ゞぶぶ「まさたいこのろあいろんとつみのろゞ
やつとうる「生ぶこのろあいこれのあるとのあるさ
んぶぶゞまどやろとせそどやろとさん

せて（ト此内かつこのつうそかぐらいちんくうそうそうせんのあときこえる）まつとつうくそうそうせんのあときこえる

「さぶ風やちらもそこのそよ風やちらもそこのそよ風やちらもそこのそよ

古市
青樓
の圖

おぐうつけるさんとおさ

アこうやうちの様子

トゆんべのもうせんれざーきでおまは

とうるてんぐもありうとてんび

よおうとうでもおぐうまーくさんこ事ま

ぐ今月練月でおまとぐうまれ

ませんのでいんま医者さ参

むこそおのひちさんせんう

こやあとうまとうこと

ゆでも茶でも湯でも

だろアいふうアイうくむーや

るゆんべもちろん

めくどこさおうさ様子でよ

十二せうちんぐごとふあるう又

くうやとんでよハアとうあうさく

アー様例のこと

タくくトおうくのこと

おいでこさるべ　サアくこれくト此内をホのいつもの考ふとつゞくくて
けちやのメリやんも有ユこちろちやのひけさうをひろみ〳〵ろりと
あんの呼ぶ声あらてござるドレおまへもよばれう　イヤ私ではござりませぬ　ハテもせ来ぬ人の筋
うつゝなくべ病人のまへ　ト此内ホのそゝくさ
と風おさまれト此内ホのそゝくさ
きと風うんもうんもうんもう

じゃ　おれ　そう　こう　から　うつ　こと　が　出来（でき）ず　病（やまい）
ても　病人（びょうにん）の　まま　と　うえ　ること　も　出来（でき）ず　それ　で
んう　こう　の　ため　に　うえ　ぢ　に　なる　より　は　いっそ　の
こと　に　しんで　しまう　病人（びょうにん）へ　ぢ　に　なれ　（ハイ）　と　今（いま）　せ
つちん　へ　まいる　と　おり　ます　を　コレ　く　神妙（しんみょう）　に　しん
さま　ごご　ろ　と　そこ　で　出（で）　ます　せ　く　（大きな声の中う）
（イヤ　まだ　出（で）　ません　おい　こと　や　こと　も　そこ　へ
おいで　そこ　さう　ます　せ　（小）　と　めう　と　する　あり　や　と

ぢ　そこ　へ　ころ　がる　うち　の　ちん　と　いう　（そん　な）
ら　ら　ま　出（で）　る　く　（トより　ちょう　ど　いい　）
そこ　へ　コリ　や　血　の　ち　ど　や　う　こ　の　そこ　く　陰門（いんもん）　と　いう
（は）
もの　よ　（イヤ　そこ　へ　孕（はら）　ざ　（ん）　ま　す　（十二
（ひろう）
帳（ちょう）　面（めん）　で　た　ん　ン　テ　ん　な　コ　イ　ヤ　コリ　や　こ　う　師（し）　匠（しょう）　ぢ　う
い　度（ど）　小（こ）　遣（づかい）　の　修（しゅ）　業（ぎょう）　就（つい）　て　も
人（ひと）　の　産（さん）　屋（や）　や　さ　ん　な　大（おお）　き　な　こ　と　を　い　ふ　の　ぢ　や
あろ　う　の　ぢ　ん　と　あ　く　ま　で

たゞそりやきこうのてんぐ
さんでござりまする
でござりまするこの男ハそれでハござりませぬ
どやコリヤてゞまちがひでやうござる
さあもそれまでそかんをつけ
めんどうさうそんぐさるかどこやおいやさあ
のおつまるとまつ仕事さんおあとも血のでよくく
うらわくとんだごとをいう男ぢやふちのでかぢ仕事する木

のうへイヤく外の病と違ひもなりさうなの也
けつこのうどやいのさきあの病どやいまる
くハ先刻ひどかつてうませぬおる
りや後のうちでござるどやおろハイあるまふ
り後のそとでござりませぬそふどやおろコレ
く女中衆のあこをとうでござりまするといつてく
ざんせ女イくかしまりまするイヤりまりおともの
人ハえまりませんこのさへつれて

「コリヤ ヤイ ヤイ ヤイ

奥